

# 蒼空

## 日本ウイグル協会会報

2009年9月1日 第1号



目次	
表紙	1 頁
皆様へ	
イリハム・マハムティ	2 頁
日本ウイグル協会の活動	3 頁
東トルキスタン概要	4 頁
ウルムチ事件概要	5 頁
書籍紹介	7 頁
「長崎にて思う」	8 頁
協会からのお知らせ	10 頁
ウイグル料理紹介	
編集後記	

# 皆様へ

世界ウイグル会議日本全権代表

日本ウイグル協会会長

イリハム・マハムティ

初秋の候、ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。

お陰さまで日本ウイグル協会が立ち上がって一年が経ちました。

この協会が、日本で唯一のウイグル人権団体として、日本の皆様にウイグルの現状を伝える窓口になったことは、皆様方の多大なご協力を抜きには語る事は出来ません。本当にありがとうございます。御座います。

この歴史が将来必ずウイグルと日本の友好関係の重要な礎となる事は間違い御座いません。

この度、私達の日本での活動は、明確に日本の法律の下で行う事が大事であると認識し、日本ウイグル協会を特定非営利活動法人として登録致しました。

これから NPO 法人として活動を続けていきたいと思っております。今後とも、ウイグルの人々の事、日本ウイグル協会の事を、宜しくお願い申し上げます。

---

## イリハム・マハムティ プロフィール

- 1969年 ウイグルのコムル（ハミ）生まれ。
- 1998年 新疆大学卒業（人文学）。
- 2001年 来日、日本語学校、コンピュータ専門学校を経て  
2005年に日本のIT企業に就職。
- 2008年 世界ウイグル会議の日本支部である「日本ウイグル協会」  
が設立され、その代表に就任。
- 2009年 世界ウイグル会議第3回総会にて、同会議日本全権代表に  
正式認定。



# 日本ウイグル協会の活動

## 目的

日本ウイグル協会は、ウイグルの人々が置かれている現状・培って来た文化・紡いできた歴史を紹介し、多くの日本の人々に知って頂く事で、ともに自由と人権を尊重するウイグル人と日本国民・日本政府の間の相互理解を促進し、友好的な関係を発展させ、協力して世界の平和に寄与する事を目的としています。

## 活動内容

上記の目的達成の為、私達は以下の活動を行います。

- ・ウイグルの歴史と文化、およびそれらが置かれている状況についての勉強会・シンポジウム。
- ・ウイグル地域で行われた核実験に関するDVDや、ウイグルの歴史や文化を紹介するDVDなどの上映会。
- ・ウイグル地域や民族に関する時事問題やその背景を紹介し、考察する講演会。
- ・街頭でのチラシ配布や講演、デモ行進などの宣伝活動。
- ・日本各地の協力者主催のウイグル関連のイベントに対する物品貸出しや人的支援。
- ・その他、あらゆる人的交流活動・宣伝活動等。

これらの活動に際し、私達は以下の事を守ります。

- ・日本国の法律を厳守し、道徳的慣習を尊重します。
- ・平和的でない全ての手段を拒否します。
- ・特定のイデオロギーの束縛を受けません。
- ・自由と人権とを普遍的な理念として掲げ、それらに対する抑圧と圧政とに反対します。



## 協会の軌跡 (主な活動の履歴)

2008年

- 3月 イリハム・マハムティ、世界ウイグル会議 (WUC) 日本エージェントに指名。
- 4月 長野聖火リレーにて東トルキスタン国旗を掲げアピール。
- 6月 セイト・トムトルコWUC副総裁来日。イリハム・マハムティを会長として日本ウイグル協会発足。世界同日開催デモを実行。
- 8月 北京オリンピック反対デモを実行  
第一回ウイグル勉強会を開催。
- 10月 チベット・モンゴル・ウイグル三民族連帯シンポジウム及びデモを実行。
- 11月 イリハム会長、ダライ・ラマ法王と単国会見。  
第二回ウイグル勉強会 (東トルキスタン共和国独立記念)

2009年

- 2月 グルジャ事件追悼デモを実行。
- 3月 シンポジウム「シルクロードにおける中国の核実験災害 日本の役割」を開催。
- 5月 WUC第三回総会に参加。日本ウイグル協会、正式にWUC傘下団体として認定。
- 7月 広東ウイグル人虐殺事件に対し、中国大使館に抗議。  
ウルムチ事件に対し、中国大使館に抗議。  
「中国政府によるウイグル人虐殺抗議デモ」を実行。  
「緊急シンポジウム・ウイグルで何が起きているのか」を開催。
- 8月 イリハム会長九州四県にて講演。  
広島・長崎にて被曝者追悼と東トルキスタン地域の核実験被害を訴える。

# 東トルキスタン概要

東トルキスタンとは現在は中国の新疆ウイグル自治区と名づけられた地域のことである。「トルキスタン」とはテュルク系の人の住む土地という意味のペルシャ語であり、その名の通りテュルク系民族がこの地域の主要な民族であり、彼らが歴史を刻み、独自の文化を育んできたのである。トルキスタンは東西に分けられ、西トルキスタンはソ連崩壊後にカザフスタンやウズベキスタンなどの5カ国が独立を達成している。

東トルキスタンは3つの大きな山脈によって、2つの盆地に分けられている。アルタイ山脈と天山山脈の間にあるのがジュンガル盆地、天山山脈と崑崙山脈の間にあるのがタリム盆地である。タリム盆地の中央部にはタクラマカン砂漠がある。石油、天然ガスをはじめとした鉱物資源、農産物、畜産物に恵まれた天然資源の豊かな地である。

東トルキスタンのテュルク系民族のうち最大を占めるウイグル人は、音楽と踊りが好きなことで有名である。多様な音楽様式をもっており、民族独自の楽器も数十を超える。古典音楽として「ムカム」があり、さまざまなリズムと複雑な音楽構造からなる、壮大な組曲である。2005年にユネスコの世界無形文化遺産に登録された。ウイグル料理は小麦や米を主食とし、肉類や乳製品を好む。料理の種類はとても豊富であり、ナンやピラフ、麺類、まんじゅう、焼肉などがある。

東トルキスタンに最初に住んだのは、イラン系・インド系のアーリア人であったが、突厥やウイグルなどテュルク系民族による歴史が続いた。13世紀以降はモンゴル帝国とその後裔のモンゴル王朝の支配下にあったが、当地のテュルク系の人々はむしろ進んでその配下に入り、モンゴル人らの国家運営に大いに協力してきたのである。

中国共産党によって支配されるまでは、都市や農村のそれぞれの地域は現地の宗教貴族や、土俗の有力者や官吏によって統治されていた。清朝末期から中華民国にかけて現地の人々の民族運動が高揚し、1933年と1944年の2回、東トルキスタン共和国が独立を達成している。

現在在外の東トルキスタン・ウイグル人組織のシンボルとなっている東トルキスタン国旗もこのときに制定されたものである。

第二次大戦後国内戦を制した中国共産党がこの地域を侵略し、1955年には「新疆ウイグル自治区」とされた。それ以降、名ばかりのウイグル人の主席を置きながらも、実権は漢人が務める共産党書記が握っている。「自治区」とは程遠いのが現状である。中国政府は「少数民族」の同化を目的として、さまざまな民族浄化政策を行っている。

政府主導の元、大量の漢人の移住が進められている。数年前からは、若い未婚女性を数万人単位で強制的に中国内地へ移送している。さらに農村部の若者達も中国沿岸部に移送し、安価な労働力として酷使している。

民族の伝統的な文化は破壊され、彼らの信仰するイスラム教の宗教活動や、民族の歴史や文化に関する出版活動などは制限されている。学校教育からのウイグル語の追放も進行中である。

東トルキスタンは石油、石炭などのエネルギー資源の豊富な地域であるが、その豊かな資源もほとんど全て中央へと吸い上げられ、現地の住民である東トルキスタンの人々にはなんら恩恵をもたらしていない。

また、さまざまの湖として有名なロプノールでは、住民が住んでいるすぐそばで核実験が何度も行われており、数十万人規模の放射能による犠牲者を出している。

このような残酷な扱いに異議を唱える者は「分離主義者」、「テロリスト」などとレッテルを貼られ、まともな手続きも経ずに監獄や強制労働所に送られているのである。



在外の東トルキスタン・ウイグル人組織のシンボル

「東トルキスタン国旗」

青地に白い月と星と言うシンプルにして鮮やかなデザイン。

# ウルムチ事件概要1

2009年7月5日に東トルキスタン（新疆ウイグル自治区）の首府ウルムチで騒乱が起きた。中国当局の発表によると、武器を手にしたウイグル人が「暴動」を起こし、商店や車両に火をつけたという。しかし実は、ウルムチのウイグル人学生らによる、「6月26日の広東省」の事件の責任を追究する平和的なデモが始まりであり、それに次第に人が合流して1万人の規模になった平和的なデモだったのである。しかし現地政府は1000人を超える武装警官を投入してデモを鎮圧し、無差別な発砲で数百人を射殺し、さらに数人を装甲車でひき殺した。

また中国政府は「暴動」は世界ウイグル会議がインターネットを通じて扇動した、計画的かつ組織的な犯罪であると主張している。

しかし現地と外部との情報のやり取りが厳格に監視されている中で、このような「暴動」を計画、実行することなど不可能である。世界ウイグル会議はこのような扇動など行っていないと完全否定している。中国政府は平和的なデモを暴動と言い、根拠が無いままに世界ウイグル会議が扇動したと批難しているのである。ウルムチの学生が抗議した「6月26日の広東省の事件」は広東省韶関市の玩具工場で起きたもので、200人のウイグル人が6000人の漢人から襲撃され、多数の死者が出たと言われる。

中国政府は当初、この襲撃事件の起きた原因をうや

むやにし、犯人を逮捕しようとしなかった。

この7月5日のウルムチの事件をきっかけに、政府は6月26日の広東省の襲撃事件の犯人を逮捕して厳罰で臨むと、方針転換することになった。

しかし、この事件を起こした犯人を逮捕するだけで、この問題は解決するものではない。直接には扇動された漢人の工員達が起こしたものであるだろうが、その背後には漢人による「少数民族」への差別意識があり、さらに根本的な原因としては、中国政府が行っているウイグル人への弾圧と、同化政策がある。

何故東トルキスタンから遠く離れた沿岸部の広東省にウイグル人の若者がいるのだろうか。

彼らは経済的な理由から出稼ぎに来ているのかのよう  
に言われるが、実際には中国政府がウイグル人の若者  
数十万人を、中国の沿岸部の工場などへ強制的に連行  
しているのである。



6月26日「広東省ウイグル人労働者襲撃虐殺事件」

倒れたウイグル人を取り囲み、なおも殴打する  
漢人従業員ら (RFUJ)

地域ごとに「出稼ぎ」に出す若者の数がノルマとして割り振られ、また貧しい農村部の若者に仕事を斡旋するとの名目ではあるものの、実態は安価な労働力として奴隷のように酷使されている。さらに女性であれば売春を強要されることもあるという。強制連行されたウイグル人達は、政府機関や企業、一般の漢人らによつて差別され、政治的にも脅迫され、収容所の囚人のように厳重な監視下に置かれている。

そもそもウイグル人の貧困を、地元での雇用によらずに、沿岸地域に移送させることによつて解消しようとするのは何故なのだろうか。

中国の支配下に入ってから、東トルキスタンには大量の漢人が入ってきている。

60年前の総人口に占める漢人の割合は6%に過ぎなかったのが、現在ではほぼ半数を占めるまでに至っている。地元の要職は漢人によつて占められ、ウイグル人は大学を卒業しても地元では仕事が出来ないのが現状である。

漢人の大量移入とウイグル人の若者の大量移出は、東トルキスタンの同化を目的として行われているのである。また若いウイグルの独身女性を大量に中国内地に移送しており、2006年から2010年で40万人を送る計画であるとのことである。

女性のみを大量に中国内地に送り込むということは、ウイグル人と漢人の通婚を奨励し、ウイグル人同士の婚姻を妨げる意図があると思われる。

# ウルムチ事件概要2

「ウルムチ事件概要1」で述べたような人の移動による政策以外にも、公教育からのウイグル語の追放、宗教活動や民族の習俗・文化への制限、などさまざまな方法によって漢人と同化されようとしており、ウイグル人というものが地球上から抹殺されようとしているのである。

7月5日にウルムチで起きたデモが武装警察によって鎮圧された後、中国政府はウイグル人の暴動によって漢人が多数犠牲にあつたと、ことさらに漢人の被害を強調し、民族対立を煽った。その結果7月7日には漢人による報復が起こった。報道された写真に写る漢人らは鉄パイプや手斧を持っているが、彼らは「デモ参加者」であるとされている。これら漢人の暴徒は道を歩くウイグル人を襲い、ウイグル人の商店を襲撃し、モスクに放火した。しかし、当局はウイグル人に対してしたような激しい鎮圧は行っておらず、「民族」毎に違った対応をしている。

また、2008年3月のチベットで起きた騒乱のとき地域を封鎖し、外国人記者を現地から締め出したことで他国からの批判が集まったことからの教訓として、今回の7月5日のウルムチ事件では一転して情報を公開する方針を採るようになった。

しかし情報を公開するとはいつても、「ウイグル人の暴動」の映像を提供するなど公式の情報発信の一方で、



\*写真は日本でのデモの様子

電話やインターネットなどを遮断して現地と直接連絡が取れないようにしていたのであるから、より効果的な報道統制を狙ったものといえるだろう。

ウルムチの事件の翌日にはカシユガルやグルジャ（イリ）などにも飛び火し、軍、武装警察による厳戒態勢が敷かれている。現在現地政府が認定する死者の数は少しずつ増えており、百数十人となっているが、その大部分を漢人の死者であると言っている。しかし世界ウイグル会議が得た情報では、5日以降現在まで、事件の時に武装警察によって殺された者、漢人暴徒の報復行為によって殺された者など、最大で3000人のウイグル人が虐殺されたとみられる。

また、今でも多くのデモ参加者らは逮捕されて監獄に閉じ込められ、拷問を受け、死に至っているはずである。

6月

26日

広東省の玩具工場で6000人の漢人従業員が、2000人のウイグル人を襲撃。中国政府発表の死者は2名。しかし実際の死者数は依然不明。

7月

5日

ウルムチのウイグル人学生ら3000人が、6月26日の事件の真相究明・責任追及を求めてデモ。デモ隊は中国国旗を掲げて、政府に敵対する意図が無い事を表しながら行進。

同日夜

中国当局、武装警察を投入。部隊は人々に対し無差別に発砲し、これを鎮圧。ウイグル人300名逮捕。

6日

カシユガルで3000人規模のデモ。警官隊に包囲され、衝突は起きなかったとされるが詳細不明。

7日

漢人住民らが武装し、行進。ウイグル人の経営する商店などを襲撃。

中国側発表

死者 197名

(死者内訳)

漢族	134名
回族	11名
ウイグル人	10名
滿族	1名
不明	22名

負傷者 1700名超

拘束者 約2000名

# 書籍紹介



中国の核実験 シルクロードで発生した地表核爆発災害  
高田 純 著 医療科学社

- 本書「中国の核実験」は中国の核実験および核被害に関して書かれた世界で最初の書物であると思われる、その意義は大きいと思います。著者の高田氏は中国の核実験の元のデータをカザフスタンでの調査中に得ましたが、カザフスタンは距離が遠いため当初余り関心はなかったそうです。しかしカザフスタン側の要請もあり調査に応じたところ、1000キロ離れた場所とは思えないほどの人体に影響を与えるデータが測定されていたといえます。この情報をえて本書が誕生することとなりました。
- 中国の核実験の特異点としては次のことがあげられます
- ① 海洋ではなく人の住んでいる地域でメガトン級の実験が行われたこと。
  - ② 事前の通告、安全地域の設置もなく実験が強行されたこと。
  - ③ 被曝に対してまったく調査、補償が行われていないこと。

本書ではカザフスタンのデータをもとに実験による放射能線量を科学的に推定し、人口統計から急性死亡者19万人、被曝者129万人との推定しています。この核被曝被害が妥当なのかは意見の分かれるところと思いますが、共産党秘密資料には75万人の死亡といわれており妥当な推定かもしれません。現地での調査が望まれます。本書での足りない点としては元のデータがカザフスタン1カ所なのが挙げられると思います。ただ実際のデータは周辺国は持っているはずでキルギスタンに在住したところのあるA氏は山に備え付けられたカウンターが異常な数値を示すといっていました。

また「天山北路の旅」(金子民雄氏)によれば過去、中国の核実験により死の灰がキルギスにも降下しており人々が神経質になっているといえます。いずれ実態が明らかになり被曝者にたいする補償が行われることが望まれます。



英雄たちの涙 目醒めよ、ウイグル  
アブドゥレヒム・オトギユル 著  
東 綾子 訳 まどか出版

本書はウイグル人が書き日本語に翻訳された最初の

ウイグル人による歴史書になります。

東トルキスタンの1910～1940年頃の歴史については中国・西洋人の記録はあるもののウイグル人の立場からかかれた物は日本ではないため貴重な資料です。作者のアブドゥレヒム・オトギユルはイリハムさんの故郷でもある東トルキスタンのクムルで1923年に生まれました。子供の頃、地元の古老ローズィー・ボワから本書の主人公であるティムル・カリフのことを聞いていたといえます。本書の底本「Iz」は1985年に出版されベストセラーになり文字の読めない人も本書を持ちたいため家に飾っていたそうです。

作者のオトギユルは1995年に没し、2002年には本書「Iz」と続編の「めざめた大地」が中国当局より発禁処分を受けました。東トルキスタンの歴史では漢人の書いた資料が許されオトギユル、アルマスなどウイグル人が書いたものは禁止されています。

本書を読んで皆さんも感じると思いますがウイグル人は漢人に比べてお人よしで交渉が下手だということです。日本人とも似ているかもしれません。翻訳者の東綾子氏は後書きで「ウイグル語は読めないが日本語は読めるウイグル人が、この本を手に取り、ティムル・カリフの存在を知る日がいずれ来るかもしれない。」と書かれており浄化されようとしている民族の悲しさがあります。

個人的には「東トルキスタン共和国研究」「中国の火薬庫」「新疆紀遊」などもあわせて読み直したいと思います。また本書の続編である「めざめた大地」の出版も期待しています。

(担当:ムシユク)

# 「長崎にて思う」

東トルキスタン  
サポーターH氏寄稿

八月八日、薄曇の品川駅から始発の新幹線に乗り込み、只管に西へ向かう。博多で乗り換え、原爆の日を翌日に控えた長崎の街へ。特急かもめから見た有明海の向こうに聳える雲仙岳は、小学生の頃にブラウン管を通して見た怒りの表情ではなく、真夏の空の下に堂々と座していた。私にとって十一年ぶりの長崎だ。

今回、私が長崎に向かった理由は三つある。一つは、六十四年前、八月九日の原爆投下により、命を落とさざるを得なかった被爆者の方々を追悼する為。そして、日本ウイグル協会の長崎での活動を支援する為。そして最後は、昨年来疑問を感じていた「平和なるもの」の実態を、私自身の眼で確かめる為だ。

私は、日本が「平和」な国であると思いついて生きてきた。少なくとも、昨年の四月二十六日までではそうであった。しかし、私が中国共産党によるチベット人弾圧に抗議する為、長野に向かい、北京五輪の「聖火リレー」の現場に身を置いた時、日本が「平和」な国であるという生温い思い込みが幻想であることを実感し、私が今まで持っていた価値観やあらゆるものがバラバラに砕け散ったことを昨日の事のように記憶している。

長野の街を覆い尽くした五星紅旗、各所で意図的に見逃された中国人留學生の違法行為、そして見て見ぬ



い振りをしてやり過ぎ日本の警察官。日本の法律が一切適用されない、つまり「日本」でなくなってしまう。長野を目の当たりにして、チベット人の現状が「他人事ではない」と確信した。それは、帝国主義的な外交を展開する中国の脅威が、実は私達日本人にも迫っており、この問題に目を背ければ、いつの日か私達もチベット人と同じ「民族絶滅の危機」が訪れることになるという確信だ。

今では、その確信こそが、私の身体をウイグル・チベット支援に向かわせる最大のモチベーションになっている。ウイグル、チベット、南モンゴル、そして台湾。監視下に置かれ、自らを形作る「言葉」や「文化」の存続はおろか、生きることすら儘ならない彼らの現状は、大袈裟ではなく未来の日本人の運命だ。

他人事ではないから、微力ながらも連帯の旗を掲げ私が出来うる最大限の支援をしたい。この気持ちができることは今後も無いだろう。

以後、長野での経験を機に、日本で語られている「平和」という概念に疑問を感じ、巷に溢れる「平和」という言葉を注意深く観察するようになった。そこで、私は週末の休みを使い、様々な「平和」への思いを持った方々が全国各地から参集するという原爆の日の長崎で、実際にどのような「平和」が語られ、訴えられているのか、現場で感じてみようと思うに至ったのだ。

長崎到着後、ホテルに荷物を置き平和公園に向かった。一刻も早く、被爆者の方々に哀悼の意を伝え、そして、私達が翌日行う「中国の核実験における被爆者救済」を訴える活動を長崎の街で行わせていただくことを報告したい。これを最優先に行わなければ、八月九日の長崎に居る資格はない、そう考えたからだ。

私は「原爆犠牲者之霊」と刻まれた御位牌の前で、被爆者の方々への追悼と明日の報告を行った。数多くの犠牲の上で、私の命があることを再認識し、今後一人の日本人として懸命に行き抜かなければならない。私に出来ることは、これ以外にないのだ。平和祈念像の横のベンチに腰を下ろし周囲を見渡すと、マスメディアや市職員、ボランティアの方々で式典の準備に奔走していた。既に整然と椅子が並べられ、飾られた千羽鶴には平和への思いが綴られている。前日にも関わらず平和公園を訪れる人は多かったが、私はその訪れる人々の中に、早くも「平和」の温度差を感じることになる。

これは事実でなのではっきりと書いておくが、缶ビ



ールを手に御位牌の前に立つ「平和団体」の男性や、記念写真を撮る事に必死で、合掌する事もせずその場を立ち去る「平和団体」の方が多かったことには衝撃を受けた。胸には「平和憲法を守ろう」「核兵器廃絶！」のメッセージが書かれている。そして、胸に書かれた都道府県のバッジから、この方々の多くが長崎の方ではないという事も窺い知れた。

個人がどのような思想を持って、それは自由であるし、それを侵す気は到底ない。公園でビールを飲む事も結構だ。もちろん、この方々の心の中に立ち入ることは出来ない。

しかし、「平和団体」を称しながら、時と場所を弁えず、被爆者への哀悼の意を表すこともなく、被爆者の霊前であのような態度を取ることに、非常に不快な思いがしたことは嘘偽りなく述べておきたい。

彼らに、平和を訴える資格があるのだろうか。彼らの多くにあった行動を、私は思想以前に一人の日本人として理解出来なかった。彼らの隣で冥福を祈る喪服姿の老婆には、彼らの掲げる「平和」がどのように映るのだろうか。

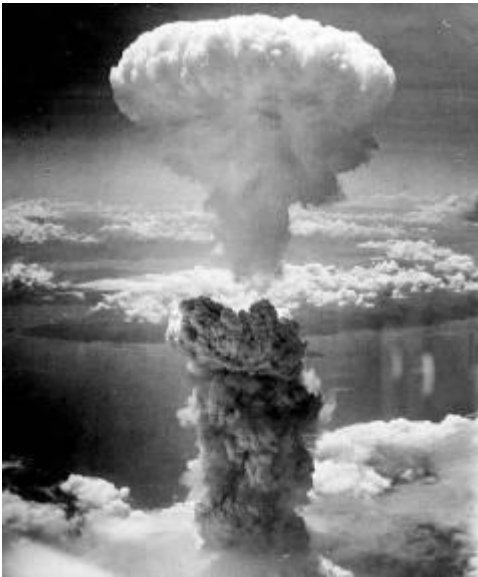
原爆投下の時刻である十一時二分は、長崎市内を流れる中島川に架かる橋の上で迎えた。日本ウイグル協会による「中国での核実験の被爆者救済」を訴える活動を支援し、道行く人に声を掛けていた私も、一旦声と手を止めて、町内放送に耳を傾ける。徐々に人通りが増え始めた街も静かになり、路面電車も道行く人も、

たちどころに歩を進めるのを止める。そして、時刻に合わせ犠牲者を弔うサイレンが鳴り響き、私も目を閉じた。

僅か六十四年前に、核兵器によって命を絶たれてしまった多くの方がいた事実と、子供の頃より祖母から聞かされた戦争の悲惨な情景など、様々な思いが脳裏を過ぎり、本物の「平和」が日本を訪れることを願った。

そしてそれを願うだけでなく、一人の日本人として行動をしていくという決意も込めて。

黙祷の後の長崎平和宣言では、長崎市の田上富久市長が「(オバマ大統領の)プラハ演説への支持を表明する取組みを始め、核兵器のない世界への道を共に歩んでいこうではありませんか」という呼びかけを行った。



プラハ演説は、「アメリカ・ロシアで核兵器を減らし、世界の核兵器ゼロにつなげる」「新たに核兵器を持つとする国には厳しい規則を作って抑える」という二点が要旨であり、核保有大国のアメリカが「核廃絶」を明言した画期的な演説であることには間違いないしかし、日本の安全保障上の脅威である北朝鮮や中国の核や、その他の核保有国について、「ゼロにつなげる」「呼び掛ける」という決意のみで、具体的な提案は示されていない。

さらに「プラハ演説」では、過去アメリカが核兵器を行使したその事実において核兵器廃絶に努めるといふ点は盛り込まれているものの、広島・長崎に原爆を投下し、数多くの日本人の命を奪った事実についての責任は、一切言及されていない。

そして、オバマ大統領が示した新しく核保有する国へ「厳しい規制」を行うという決意は、高まりつつある日本の「核武装論」への牽制であることも忘れてはいけないだろう。日本の核保有はおろか、「論議」も認めないというスタンスの表れである。

そのような加害国であるアメリカの大統領の演説を、数十万もの市民の命を奪われた長崎・広島的首長が手放しで絶賛せざるを得ない異常な状況こそ、如何に核兵器廃絶が困難で、現実的に不可能な状況に置かれているかを如実に示しているのではないだろうか。

被爆者の遺族や長崎市民の中から湧き上がる鎮魂の



思いから生まれた「平和」と、平和団体が掲げる極めてイデオロギー色の濃い「平和」。私が十一年振りに訪れた長崎の街を、この二つの相対する「平和」が覆いつくしていた。

しかし、今回の活動中、チラシを積極的に受け取り、声を掛けて頂いた方や、声に耳を傾け、頷き、言葉はなくとも、目を合わせ合図を送ってくれた多くの長崎市民の心の中には、長崎市民にしか訴えることの出来ない本物の「平和」が宿っていることを感じる事が出来た（ご協力頂いた皆様、本当に有り難うございました）。

その心に今後も賛同し、遠方から色々な形で連帯し行動したい。そう決意を新たにしたら私は、微かに見えた光と、熱中症気味の身体を引き連れて、明日からの日常生活に備えるべく博多へ向かう特急かもめに乗り込んだ。

## お知らせ

### 協会公式HPをご利用下さい

日本ウイグル協会公式HPでは、様々なウイグル関連イベントのご紹介や、現地の最新ニュース紹介など、たくさんの情報を公開しています。支援者の方々が作成して下さいましたウイグルグッズの販売紹介もあります。どうぞご利用下さい。

URL : <http://uyghur-j.org/>

### 11月12日は建国記念日です

来る11月12日は東トルキスタン・イスラム共和国（1933年）、東トルキスタン共和国（1944年）の建国記念日です。

日本ウイグル協会でも、11月中の記念行事開催を企画中です。開催が決まりましたら、HP等でお知らせ致しますので、宜しく御願い致します。

## 編集後記

○日本ウイグル協会会報第一号を無事にお届けできました。読み応えのある原稿をお寄せ下さった皆様、有難うございます。○数十年に及ぶ弾圧の延長上に起きた6月・7月の事件。犠牲者の方のご冥福をお祈りいたします。○長崎からのレポートは、私たち自身が活動をしていく上で重要な教訓を含んでいる様に感じます。○ご紹介しました書籍二冊、知られざる真実がそこにあります。○料理紹介第一回はカワップ。本当に美味です。○初めての編集作業に慣れないパソコン、見苦しい点多々ありますが精進して参りますので今後とも蒼空を宜しく御願い申し上げます。（編集担当「ぬ」）

## ウイグル料理紹介 第1回「カワップ」

羊の串焼き。家庭料理というよりも屋台などで食べることが多い料理です。

写真のようなズィフカワップの他にも、串を使わず鉄鍋で焼いたもの、窯で一頭丸ごと焼いたもの、羊の腎臓に玉ねぎを詰めたものなど様々な種類があります。



ウイグルでは手軽な軽食としてよく食べられています。とても美味しいので、ぜひ作ってみて下さい。

### 材料

羊肉 500g・A[玉ねぎ 1/2個・小麦粉 15g・卵 1個]・塩・胡椒・クミン・唐辛子(スパイスはお好みの量で)

### 作り方

- ① 一口サイズに切った羊肉に塩・胡椒する。(脂身があるとおい)
- ② ①にAを混ぜたもの(玉ねぎはみじん切りにするか、すりおろす)をすり込み、数時間寝かせる。
- ③ 鉄串に刺し、スパイスをふりかけながら炭火(もしくは弱火)でじっくり焼く。

日本ウイグル協会

〒150-0012

東京都渋谷区広尾 1-1-39

恵比寿プライムスクエア 1F

MBE521

TEL:080-3248-3463

E-mail:[info@uyghur-j.org](mailto:info@uyghur-j.org)